

農地中間管理事業の活用による取組事例（日本初、デュラム小麦の栽培に挑み、淡路島産パスタの誕生）〔兵庫県淡路市〕

あわじ

1. 地域農業の状況

○ 淡路市は、淡路島の中央部から北部に位置し、気候は比較的温暖な瀬戸内海気候に恵まれている。中山間地域であることから稲作規模は小さいものの、日本一の品質を誇る“淡路島たまねぎ”を中心とする野菜をはじめ、繁殖和牛の飼育、レタス、トマト、温州ミカンなど多彩な農畜産物が生産されている。

<位置図>



○ 市内の畑作地域では、高齢化等に伴う荒廃農地の増加が地域農業の大きな課題となっていた。



2. 荒廃農地再生利用の取組

取組主体	(有)芝床重機	地区名	淡路市 野島常磐地区
再生面積	1.66ha	取組年次	平成26～27年
作付作物	パスタ専用品種「デュラム小麦」	販路	連携企業(淡路麺業(株))へ原材料を供給、同社はパスタ商品の開発・販路開拓)

「淡路島の荒廃農地」を再生し、デュラム小麦の栽培に挑む！

○ 2015年、淡路島で創業108年を迎える麺製造メーカーの淡路製麺(株)は、国内ではほとんど栽培されていないデュラム小麦を淡路島で栽培し、国産小麦でパスタを作るという新たな取り組みを発表した。

淡路島で荒廃農地を活用して積極的な農業生産の拡大に取り組んでいた、芝床重機は、淡路製麺の「一次産業を活性化させたい。淡路島でそれが実現できれば、生パスタを通した地域活性は、全国展開できる。」との意欲に応じ、同社と連携の上、パスタ商品の原料に適した「淡路島産デュラム小麦」を栽培することになった。

需要に応える農業を展開し、日本初、淡路島産パスタの誕生

○ 20年以上も耕作放棄され、地元も困っていた農地を耕作放棄地再生利用緊急対策交付金と農地中間管理事業を組み合わせることで、荒廃農地の再生と担い手への農地の集積を同時に図り、レストラン等の外食産業からの「純国産のパスタが欲しい」という需要に応えていくこととした。

○ これまで作られていない品種の小麦を栽培することから、病害等の被害もあるが、デュラム小麦を栽培する農家が増えることによって、淡路島の荒廃農地が減少していくことを期待している。

活用した支援策

- H26～ 農商工等連携事業計画(国)(低利融資)
- H26 耕作放棄地活用総合対策事業(県単)(再生作業)
- H27 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(再生作業)

パスタ原料に欠かせぬデュラム小麦

デュラム小麦は、パスタの本場イタリアの南部で栽培されている他、現在は、地中海沿岸、北アフリカ、中央アジア、北米大陸などで栽培されている。日本のメーカーが製造しているパスタには、アメリカやカナダ産のデュラム小麦が使用されている。専門家の間では、「国内でデュラム小麦を栽培するのは不可能」というのが定説で、実用化に向けた改良や育種は行われていなかった。